

治安維持法に立ち向かい暗殺された 孤高の衆院議員「山宣」の闘い

石川将来 有料記事 2025/7/23 11:00.....



殺害された山本宣治のひつぎを運ぶ人たち = 1929年3月

殺害された山本宣治のひつぎを運ぶ人たち = 1929年3月

歴史には分岐点がある。**1929年3月5日**もまた、その後の日本社会を方向付けた一日と言えるかもしれない。

この日、「天下の悪法」とも称されるようになる治安維持法の暴走に歯止めをかけるため、危険を承知で抵抗を続けた政治家が暗殺された。「山宣（やません）」の愛称で親しまれた労農党所属の衆院議員、山本宣治（せんじ、1889～1929年）だ。その生き様と非業の死はやがていくつもの新たな物語を生み、思いを継ぐ人たちを突き動かし続けている。

日本学術会議法案に歴史重ね



治安維持法を糾弾し暗殺された山本宣治 = 京都府宇治市で 2025 年 6 月 12 日午後 3 時 57 分、石川将来撮影

<歴史を振り返っても**学問の自由、思想信条の自由の侵害は戦争への道の始まり**です>

2025 年 5 月 12 日。山本の顕彰に取り組む市民団体「長野山宣会」が、石破茂首相宛てに要請文を送付した。くしくも治安維持法施行から 100 年の節目の日。国の特別機関と位置づけられてきた日本学術会議を特殊法人化する「日本学術会議法案」の衆院本会議での採決が近づく中、廃案を求める内容だった。

同会は、計 3 日間の審議で同月 9 日に賛成多数で可決した衆院内閣委員会の判断を「拙速」と批判。法案を「政府の意向に沿う組織に変容させようとするもの」と断じた。

科学者が戦争への協力を強いられた教訓から、独立性が認められた国の特別機関として 1949 年に設立されたのが学術会議だ。特殊法人化に賛成した与党は「独立性が高まる」と主張するが、業務を監査する「監事」や、学術会議自身の自己点検評価に意見を述べる「評価委員会」を設けて首相が任命する新たな仕組みに、研究者らからは逆に「学問の自由を侵害する」との声が上がり、議論は平行線をたどった。



日本学術会議法案を賛成多数で可決した衆院内閣委員会。この直後に「長野山宣会」は廃案を求める要請文を石破茂首相宛てに送付した = 国会内で 2025 年 5 月 9 日午後 4 時 35 分、平田明浩撮影

日本学術会議法案を賛成多数で可決した衆院内閣委員会。この直後に「長野山宣会」は廃案を求める要請文を石破茂首相宛てに送付した = 国会内で 2025 年 5 月 9 日午後 4 時 35 分、平田明浩撮影

「法案が衆院を通過してしまう」。要請文の送付前、国会審議が大詰めを迎えているとのニュースに同会の中村修事務局長（65）は焦りを募らせた。「生物学者だった山

宣は産児制限運動（多産を避け貧困を防ぐ主張）を唱え、出産に関する女性の自己決定権を尊重しましたが、『産めよ増やせよ』の国策に合わない主張をしたことから特別高等警察（特高）の厳しい監視を受けました。治安維持法が学問の自由を弾圧する中で暴走した過去も踏まえると、山宣会として危険をはらんだ法案には反対の声を上げるべきだと考えました」

治安維持法と学問の自由の侵害とは不可分の問題だ。同法が初適用されたのは京大、同志社大の社会科学研究会のメンバーらが一斉検挙された26年の京都学連事件。同志社大講師だった山本も研究会の協力者とみなされて家宅捜査を受け、大学を追放されている。

33年には京大法学部の滝川幸辰（ゆきとき）教授が著書で危険思想を説いたとして国から一方的に休職処分を受けた「滝川事件」が、35年には貴族院議員で東大名誉教授だった美濃部達吉の学説が排撃された「天皇機関説事件」が起きるなど、政府に都合の悪い思想が次々と弾圧された。

「歴史の過ちを繰り返してはいけない」。そうした長野山宣会の願いに反し、法案は6月11日、参院本会議で可決、成立した。

「日本の良心が抹殺された」



山本宣治の墓前で功績を語る「宇治山宣会」の藪田秀雄会長＝京都府宇治市で2025年6月12日午後4時40分、石川将来撮影

山本宣治の墓前で功績を語る「宇治山宣会」の藪田秀雄会長＝京都府宇治市で2025年6月12日午後4時40分、石川将来撮影

山本は 29 年 3 月 5 日、東京の旅館で右翼活動家に襲撃された。首や胸を短刀で切りつけられ、39 年の短い生涯を閉じた。

戦前、思想弾圧に利用された治安維持法を「悪法」と糾弾し、反対の立場を貫いた。事件 3 日前、帝国議会では前年に緊急勅令の形で最高刑を死刑に引き上げた同法の改正事後承諾案が提出されていて、殺害された山本の洋服ポケットからは反対討論に向けて準備したとみられる草稿が見つかった。

志半ばで凶刀に倒れた山本の懸念は的中し、その後、さらなる改正も経て治安維持法は宗教団体や文化サークルにも牙をむくなど、暴走。日本は軍国主義化を深めた。

「あの事件で、反戦平和活動の一翼を担った日本の良心が抹殺されました」



没後96年に合わせて開催された山本宣治の墓前祭 = 京都府宇治市で2025年3月5日、鶴塚健撮影

没後 96 年に合わせて開催された山本宣治の墓前祭 = 京都府宇治市で 2025 年 3 月 5 日、鶴塚健撮影

そう話すのは、山本の故郷・京都府宇治市で顕彰に励む「宇治山宣会」の藪田秀雄会長（80）だ。約 260 人の会員を抱える同会は、命日に合わせた墓前祭の開催や年 1 回の会誌「山宣」の発行の他、実家の一角に開設された資料館などでのガイド活動を続ける。

戦後、京都、長野、東京など山本ゆかりの地に次々と「山宣会」が設立され、没後 100 年近くがたった今も、全国で山本の反戦平和の精神が連綿と伝え継がれている。

権力に丸め込まれない「危険人物」

宇治市の老舗料理旅館「花やしき浮舟園」は山本の実家だ。世界遺産・平等院にほど近く、今年で創業 131 年を迎えた。

幼い頃から虚弱体質だった山本は、中学校時代に胸を患って 1 年ほどで退学している。療養生活を挟み、青年時代にはダーウインの進化論を学んで科学的知見を深めた。18 歳で留学のため、遠縁のいたカナダへ渡航。日露戦争後の経済不況で実家が経済的に厳しくなり、現地で新聞配達や缶詰工の仕事をこなすなど苦学を強いられたが、自由な気風を重んじる現地の高校で、男女平等や貧富による差別の否定、民主主義の思想を養った。



山本宣治の実家の一角にある「山宣資料館」 = 京都府宇治市で 2025 年 6 月 12 日午後 4 時 1 分、石川将来撮影

山本宣治の実家の一角にある「山宣資料館」 = 京都府宇治市で 2025 年 6 月 12 日午後 4 時 1 分、石川将来撮影

「山宣の生涯は健康上の問題から来る挫折が多く、勉学も常に働くこととセットだった。こうしたさまざまな経験が粘り強い人格をつくり、労働者の目線を育んだのではないか」。「花やしき浮舟園」での取材中、藪田さんはそう指摘した。

山本は帰国後、大学で生物学の講師を務め、科学的知識を土台に性教育や産児制限運動の先駆者として活躍。運動を通じて農民や労働者とのつながりができ、26 年結党の労農党から国政立候補の打診を受けて 28 年 2 月の衆院選で初当選した。

刺殺までの1年ほどの在任中に全力で向き合ったのが、思想弾圧に猛威を振るった治安維持法だった。共産党員ら約1600人が全国で一斉検挙された28年3月の「3・15事件」が起きると、山本は全国の警察署や拘置所を行脚して不当に検挙された人たちの言い分を聞き取るなどし、29年2月の帝国議会予算委員会で過酷な取り調べや拷問について政府を厳しく追及した。

「殺されるかも」。事後承諾案の採決が近づく中、全国で反対の声を上げていた山本は息子にそう漏らしていたという。

藪田さんは言う。「治安維持法の威力を拡大させ戦争を推し進めたい政府からすれば、山宣は痛いところを突く目障りな存在。労働者や女性の支持者も多く、その上、権力に丸め込まれることもなく妥協しない危険人物ですから」

死してなお警察が墓を監視

く治安維持法は、いまやもっとも悪辣（あくらつ）に改悪されようとする。（略）いまここに、改悪案を掲げて、極刑に問おうとするのは、従来、嘘（うそ）と不法とで固めた方法に嫌（あきた）らずして、今後ますます兇暴（きょうぼう）なる弾圧に曝（さら）そうという意図に過ぎない。わたくしは、労働者・農民の代表者として帝国議会に臨んでいるものとして、かかる悪法・悪緊急勅令を永久化することには、徹底的に反対なものである。見つかった草稿の一節だ。本会議での山本の意見表明は幻に終わった。



山本宣治の実家の一角にある「山宣資料館」 = 京都府宇治市で2025年6月12日午後4時9分、石川将来撮影

山本宣治の実家の一角にある「山宣資料館」 = 京都府宇治市で 2025年6月12日午後4時9分、石川将来撮影

山本は今、実家近くの墓地に両親らと眠る。死の直前、特高の厳しい監視の目が光る中で中断させられた山本の演説の言葉が、墓の裏面に刻まれている。

＜山宣ひとり孤墓を守る だが私は淋（さみ）しくない 背後には大衆が支持しているから＞

刺殺の3カ月後、山本の思想の普及を恐れた警察はこの碑文を問題視し、セメントで塗りつぶした。さらに、「山本宣治之墓」と刻むはずだったものを「花屋敷山本家之墓」と変えさせて建立を認めた。その後しばらく、山本を慕う人々が夜陰に紛れてセメントを削り落とし、それに気づいた警察が碑文を再び隠し、また誰かがセメントを剥がす攻防が続いたという。

死してなお警察の監視下に置かれた山本の墓。その運命をたどる時、日本の思想弾圧の歴史の一端を垣間見ることができる。

守られた碑、継がれたバトン



長野県にある山本宣治の記念碑（中央）＝長野県上田市で2017年2月10日午前11時25分、小川直樹撮影

長野県にある山本宣治の記念碑（中央）＝長野県上田市で2017年2月10日午前11時25分、小川直樹撮影

他地域ではこんなエピソードも。29年3月1日、山本は農民運動を展開していた長野県の上小農民組合連合会（上小農連）の招きで約1000人を前に議会報告し、同法の事後承諾案に反対する覚悟を伝えた。

4日後の刺殺事件を受け、上小農連は山本の一周年忌に記念碑を建立したが、33年には警察が「記念碑を壊せ」と命じた。だが、建立された土地の持ち主が警察に「壊

した」とその報告をしてひそかに碑を同県上田市の自宅に運んで保存。守り通された碑は 38 年後の 71 年 10 月に再建され、近くの安楽寺境内に今も建ち続けている。

碑の再建を記念して発足した「長野山宣会」は、毎年 10 月に碑前祭を開催している。同会が大切にするのが、平和と民主主義を守る活動だ。日本学術会議法案への要請文の送付もその一環で、中沢勘介会長（85）は「奇跡的に残った碑を守るとともに、山宣の遺志を引き継ぐことが我々の使命。平和と民主主義が政治と結びついた問題である以上、政治的活動は避けられない」と話す。

「東京山宣会」も山本終焉（しゅうえん）の地に立てられたプレートなど、ゆかりの地を案内する顕彰を続ける。永島（えいじま）民男会長（71）は山本の親族だ。戦後、治安維持法による弾圧を受けた人々らが国家賠償と謝罪を求めるために発足した人権団体「治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟（国賠同盟）」の事務局長も務めつつ、同法の暴走を招いた国の責任を厳しく追及している。

「周囲が国家の弾圧にくじけ戦列から離れる中、山宣は最期まで正義を守り抜いた。戦後 80 年がたってもいまだに悪法への謝罪も賠償もしようとしない国の姿勢を改めさせなければ、治安維持法によって勾留されたり、拷問を受けたりした人々の気持ちは癒えない」

山本から受け継いだバトンを胸に、今日も権力と向き合い続ける人たちがいる。山本の死から 96 年。今なお続く戦いだ。【石川将来】

治安維持法施行 100 年

<https://mainichi.jp/chianijihoh/>